

入選

僕の考え方が変わった

宮崎県 庄内中学校

2年 飯干遼亮

僕は、7月4日にタイムスリップしたくてしょうがない。

7月4日、職場体験の日だ。活動中、担当の方が両手で荷物を持っており、ドアを閉められなくて困っている、という状況を目の前にした。そこで僕は、「手伝った方がいいかな、どうしよう。」と悩んで、「手伝わない」という選択肢をとってしまった。僕はいつもこれだ。困っている人がいても、すぐ駆け寄って助けることができない。こんな自分が嫌でしかたない。

7月5日、職場体験2日目の日、そんな自分を変えられるチャンスが現れた。今回は担当の方が荷物を両手で持って部屋に先に入り、ドアが開いたままだった。しかし、ここで僕の悪いところが出てしまった。「勝手に閉めていいのか。」と迷い始めてしまったのだ。

聞けばいいのは分かる、だがそんな勇気は僕にはなかった。結局、行動することはできず、担当の方がドアを閉めたのだ。とても小さいことだが、僕が閉めておけば、担当の方の手間は省けたと思う。このように、また後悔する。もう中学2年生にもなったのに、自ら進んで行動もできなくていいのかと、いいわけがない。7月5日はやるべきことだけして、終わってしまった。

それから3日、4日ほど日にちが経っただろうか、僕は、従兄弟と家族でいっしょに昼食を取るために出かけた。そこで、僕はこのような状況を目の前にした。従兄弟が店の扉を開けて、僕の家族を先に入れてくれた。さらに従兄弟は、自分以外の靴を丁寧に並べてくれた。自分より3歳年下の従兄弟が、僕よりも断然人のために行動できていて、僕は自分がとても情けないと思った。

だが、情けないという感情とともに、心が温かくなった。僕へだけでなくほかの人にも親切なことをしている人を見たら、自分も誰かにしてあげたい、という気持ちにもなった。この日から僕の中での考え方が変わったと思う。

僕の考え方が変わってから数日後、意外に人のために行動できるチャンスはたくさんころがっているもので、店で小銭を床に落としてしまった人に、僕はすぐに駆け寄り拾うのを手伝うことができた。

「ありがとうございます。」と言われたとき、とても体が熱くなった。人に親切にすることが、これほど気持ちの良いものだとは知りもしなかった。また、人に見られていなくても僕は、「親切」をすることができた。学校で乱れているトイレのスリッパを並べたり、風で床に散乱してしまったプリントをすべて拾ったりすることができた。

このような小さな親切の積み重ねが大切だと僕は思う。また、これからも困っている人がいたら、自分のため、その人のためにもすぐ行動できるようにしていこうと思う。